

## 『賢い人のように②』

'23/02/05

聖書箇所:エペソ人への手紙 5章 15-17節(新約 p.379)



前回から、私たちは、「聖書が教える賢い人物」について…、また、その歩みについて学んでいこうとしています…。聖書が教える賢い人物とは、どれほど多くの知識を有しているか、つまり、どれほどたくさんのことを知っているか？ということではありません…。神様から見て、本当に知恵のある、賢い人物とは、聖書のみことばを知っているだけでなく…、何より、それを実践している人物のことなのです。

### 命題: 神から見て「賢い人のような歩み」とは、どのようなものでしょう？

私や皆さんのことを本当の意味で正しく判断し、正しく裁くことができる御方は、真の神様だけです！私たちの歩みが、果たして、賢いものなのか愚かなものか、あるいは、知恵あるものなのかどうか、本当に、価値あるものなのかどうか？…その判断ができるのは、真の神様だけです！

そういったことのために、私たちは、聖書のみことばを学んで、神様のみこころというものを知っていく必要があります。神様のみこころを知ることによって、私たちは、真唯一の神様がどのようなものを愛され、また逆に、どういったものを憎まれるのか？あるいは、どのようなものに価値を御認めになられ、価値を認められないのか？ということ、私たちは知っていくことが必要なのではないのでしょうか？

願わくは、ここにおられる皆さんが、今よりもっと、神様の前に価値のある…、そのような人生を歩んでいくことができるために、このエペソ書 5章のみことばを、先週に続いて学んでいきたいと思えます。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、エペソ 5:15-17をお開きください。初めに、お読みいたします。

<エペソ 5:15-17>

- 15 そういわけですから、賢くない人のようではなく、賢い人のように歩んでいるかどうか、よくよく注意し、
- 16 機会を十分に生かして用いなさい。悪い時代だからです。
- 17 ですから、愚かにならないで、主のみこころは何であるかを、よく悟りなさい。

### I・注意 深い歩み！(15-16節)

一体、どういった歩みこそが…、神様が喜んでくださり、神様が賢いと評価して下さるのでしょくか？⇒前回に私たちが学んだことは、「注意」深い…、慎重な歩みということでした。…良いでしょうか？皆さん。神様は、私たちが、いい加減な判断でもって…、適当に、また、それぞれ、好き勝手に生きていくことを、決して喜んでくださいません…。

だから、前回の礼拝では、IIペテロ 1:20-21のみことばを引用させていただきました。そこには、こう記されておりました。『20 それには何よりも次のことを知っていなければいけません。すなわち、聖書の預言はみな、人の私的解釈を施してはならない、ということです。21 なぜなら、預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったのだからです。』⇒ここで注意&警告されているように、聖書のみことばを好き勝手に理解したり…、あるいは、間違っって解釈したりするようなことは、その人だけでなく…、今後、その人たちが教える人たちの人生をも左右してしまうかも知れません。だから、私たちは、しっかりとみことばを学び…、できる限り、自信をもって、そういったことを正しく伝えることができるようにまで、成長していくべきではないでしょうか？

今回のみことばの 15節に、『賢くない人のようではなく、賢い人のように歩んでいるかどうか、よくよく注意し、』とあるように、聖書が教える賢い人物とは、自分の歩みをよくよく吟味する人物のことです…。「周りの皆がそうしているから…」とか、「もうずっと長い間、こうやってきたから…」ということだけで、満足してしま

うのではなく…、しっかりと自分が今、歩んでいる道が正しいかどうかを、常に、聖書のみことばをもって、吟味し続けるような者たちのことなのです。

もちろん、そういったことは、クリスチャンである私たちも同様でなければなりません！パウロは、この手紙をクリスチャンであった、小アジアの教会に送りました。…と言うことは、クリスチャンである私たちも、常に、自分が今、進んでいる方向性が正しいかどうか…、間違っていないかどうかということ、絶えず、吟味する者でなければならないのです！

### II・神の みこころ に沿った歩み！(17節)

そうして…、2番目に、今回のみことばが教えてくれている、賢い者の歩みとは、常に、神様の「みこころ」に沿った歩みをしていく！ということです。どうぞ、今回のみことばの 17節をご覧ください。そこには、こうあります、『17 ですから、愚かにならないで、主のみこころは何であるかを、よく悟りなさい。』って…。

#### ●『神の みこころ』とは？

実は、ここ 17節には、命令文が2つあります。①愚かになるな！②悟りなさい！ということです。明らかに、同じようなことをここで繰り返すことによって、そのことを“強調しよう”としています。ですから、このみことばが教えてくれている、賢い者の歩みとは、「神様のみこころというものをよく悟った歩み」だと教えてくれているのです…。

ところで、皆さんは、「みこころ」というものをどのように考えておられます？…具体的に、「神のみこころ」とは、どういうものなのでしょう？⇒ローマ 12:2 では、こう教えられておられます。『この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。』…このみことばを、原語のギリシヤ語で観察してみると、『神のみこころ』と並行した書き方で、①良いこと、②神に受け入れられること、③完全なこと、といったものが3つ挙げられておりました…。実は、それらは皆、同じようなものを意味するのです。ですから…、私たちが今、手にしている日本語訳の聖書でも、『神のみこころは何か…』という言葉のすぐ後に、『すなわち…』とあって、神のみこころを説明するような感じで訳されておられますよ。

つまり、『神のみこころ』とは、①神が良しとして下さることであり…、②神に受け入れられることであり…、③神の前に、完全なことなのです。このようなことから…、聖書が教えてくれている神様とは、当然、意志や感情を御持ちである、ということが分かります…。時々、「神とは、宇宙が持っているエネルギーである…」とか、「万物の法則のようなものである…」などと言われたりすることがありますが、聖書は、決して、そのような神様を教えてはいません！聖書が教える神様とは、生きた御方であり…、意志や感情…、そして、様々な御計画などを御持ちであられるのです。だから、私たちがもう既に学んだように、例えば、エペソ 1:11でも、このような表現があるのです。『この方において私たちは御国を受け継ぐ者ともなりました。みこころによりご計画のままをみな行方目的に従って、私たちはあらかじめこのように定められていたのです。』⇒つまり、この聖書が教えてくれている、真の神様とは、意志や御計画などを御持ちなのです！また、感情や御考えなどというものを御持ちの…、生ける神様なのです！

今日のみことばの 17節には、『ですから、愚かにならないで、主のみこころは何であるかを、よく悟りなさい。』と教えます。ここで、「悟る」と訳されている言葉(συνίημι)は、「一緒に」という前置詞と、「送る」(ίημι)という言葉が合わさってできた合成語です。色々な物を総合したり、まとめたりするようなイメージから、ただ単に、「知る」ということではなく…、「悟る、理解する、気付く…」というようなイメージの言

業として使われるようになったようです…。つまり、私たちは、①何が神の前に良いことなのか、②どういったことが神に受け入れられるのか、③どのようなことが完全なのか、ということなどをしっかりと自信を持って…、また、ちゃんとした根拠を持って、理解していくことが必要なのです。

いかがでしょうか、皆さん…。皆さんは、日々の歩みの中で…、また時々、なしてきた大きな選択を、「これは、神様の前に「賢い選択」である…。神様は、これを喜んでくださったはずだ！」というような確信をお持ちでしょうか？いかがです？

### ●神様のみこころを知るために 必要 なこと

実は、今にして思うのですが…、私自身、過去を振り返ってみますと、神のみこころということに関して、実に、いい加減に、と言うか、適当に判断してきてしまったのではないかと…というような反省があります。…皆さんはいかがですか？

神様のみこころということに関して、時々、こんなことを言われる方がいらっしゃいます…。「私の進もうとしていた道が閉ざされてしまいました。きっと、これは神様のみこころじゃなかったんだ…」いかがでしょうか？私たちは、時々、こういったことを考えたり…、言ったり…、あるいは、耳にしたことはないでしょうか？また、こういった場合はどうでしょうか？「神様は、私の前に、こんな道を開いてくださった！きっと、これが神様のみこころに違いない！」って…。

こういった人は何をしているのでしょうか？⇒言い換えれば、それは、神様のみこころを、その時に与えられた“状況”でもって、判断しているのです…。果たして、これは正しいことでしょうか？あるいは…、それが神様のみこころを知るために、本当に良い方法だと、皆さんは思われるでしょうか？

もしも、そういったような…、周りの状況でもって神様のみこころというものを判断してしまうなら、きっと、アダムやエバは、こう言えるでしょう…、「神様が、私たちの前に…、私たちの手が届く範囲内に、善悪の知識の木の実を置かれたのは、きっと、私たちが食べても良いからなんだ…」って…。どうでしょうか、皆さん？果たして、このような考えや判断は正しいでしょうか？

⇒違いますでしょ！もし、そういったことを言ってしまうなら、それはアダムやエバだけに留まりません…。罪を犯した者たち全員が、同じような言い訳をできてしまうでしょう…。「神様が、私にそういった選択肢を与えてくださったのは、それをしても良いという、神様からのメッセージだと思いました…」って…。

このように…、「もしも、私たちが自分に与えられた状況でもって、神様のみこころというものを判断してしまう」なら、そのようなことにもなってしまいかねません…。だから、パウロも、コリント教会に対して、こう教えてくれていますでしょ？Ⅰコリント 6:12、『すべてのことが私には許されたことです。しかし、すべてが益になるわけではありません。私にはすべてのことが許されています。しかし、私はどんなことにも支配されはしません。』⇒確かに、パウロが教えてくれているように、私たちの周りにはたくさんの選択肢があります。しかし、選択できる状況にあるからと言って、それが必ずしも、神様の前に賢い…、良い選択であるとは言えません。パウロの言葉を引用するのなら…、私たちがなす選択がすべて、直接的に、皆さんの益や祝福に繋がるとは限らないのです…。

じゃあ、一体、私たちはどうすれば良いのでしょうか？ 一体、どうすれば、私たちは、神様のみこころというものを正しく知っていくことができるのでしょうか？⇒正直言って、私を含めて、多くのクリスチャンの皆さんがそういったことを考えて…、ある時には、間違った判断をしてきたり…、あるいはまた、間違っただけでなく、幼稚な判断や賢くない選択をしてきたことがあると思います。そこで、今日は少し脱線しますが、神様のみこころを知るためには、どうすれば良いのか、ということについて、しばらく考えていきたいと思います…。

### ①イエス・キリストを、救い主 と信じる！（Ⅰテモテ 2:4-6）

神様のみこころを知るためには、まず第1に、イエス・キリストを真唯一の神様…、自分にとっての“救い主”と信じる必要があります。この神様を信じ、受け入れることがなければ、その人は決して、本当の意味で、神様のみこころを知って歩んでいくことはできません。

Ⅰテモテ 2:4-6のみことばは、こう教えてくれています。『4 神は、すべての人が救われて、真理を知ようになるのを望んでおられます。5 神は唯一です。また、神と人との間の仲介者も唯一であって、それは人としてのキリスト・イエスです。6 キリストは、すべての人の贖いの代価として、ご自身をお与えになりました。これが時至ってなされたあかしなのです。』⇒このように、神様とは唯一であること…、その真の神様が、人間イエス様となって、この地上に来てくださったこと…、そして、そのイエス様が、あなたの罪を清算するために、自ら進んで、あの十字架の上に磔になって、約束通り、3日目によみがえってくださったということ信じることです！それが無いと、その人は今も真の神様を拒み…、エペソ 2 章で学んだように、神様の敵として…、実は、悪魔に従って歩まされてしまっているのです。言うまでもなく…、神様に敵対して歩んでいる者に…、神様を拒み続けている者に、神様のみこころが示されるはずがないですよ…。

### ②御霊に 満たされて 歩む！（エペソ 5:18）

その次は、御霊に“満たされて”歩んでいくということです。これに関しては、また来週に学んでいくつもりです。神様は、イエス様を信じて救われたクリスチャンの皆さんに対して、御霊なる神様を遣わしてくださいました…。神様が望んでおられることは、皆さんが、その御霊なる神様に従って、歩んでいくことなのです。今回のみことばの、すぐ後の 18 節に、『また、酒に酔ってははいけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい。』とある通りです。もし…、皆さんが、その聖霊なる神様に、すべてを明け渡して従っていかれるなら…、皆さんに与えられた聖霊なる神様は、皆さんを導いて、神様のみこころをなしに歩いてくださるのです…。

### ③罪から離れて、自分を 聖く 保つ！（Ⅰテサロニケ 4:3）

そして3つ目は、罪から離れて、自分自身を“聖く”保っていくということです。私たちが信じ仕えている御方は、何よりもまず、義なる…、聖く正しい御方です。その方のみこころを知っていくためには、当然のことながら、私たち自身も聖くあらなければなりません…。

Ⅰテサロニケ 4:3のみことばは、こう教えます。『3 神のみこころは、あなたがたが聖くなることです。あなたがたが不品行を避け、』とあります。⇒このみことばも、はっきりと教えてくれているように、神様のみこころは、救われた私たちが聖くあることです。…以前にもお話ししましたが、ここ 3 節で、『不品行』と訳されている言葉は、ギリシヤ語の「πορνεία」(ポルネイア)という言葉が使われていて…、日本語の「ポルノビデオ」という言葉の語源ともなった言葉が使われてあります。つまり、ここで言われている「聖い」という意味は、私たちが姦淫などの性的な罪を避けて、特に、行ないにおいて聖潔を保つことです。ですから、新共同訳聖書や、多くの英語訳聖書などは、この部分を、「不品行を避け」という表現を使う代わりに、「みだらな行いを避け…」というように翻訳しています。

それと同じようなことですが、Ⅰヨハネ 1:9には、『もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。』とあるように、私たちは、様々な罪や悪から聖められるために、正しく自分自身の罪を悔い改め、それを神様に告白して、聖めていただく必要があるのです。

#### ④神様に対して、常に、従順 している！（Iヨハネ 3:21-22、ピリピ 2:12-14）

そして4つ目は、神様に対して、“従順”で居続けるということです。神様のみこころは、例え、クリスチャンであったとしても…、神様に対して従順な者でないと示されるはずがありません。Iヨハネ 3:21-22 のみことばは、こう教えます。『21 愛する者たち。もし自分の心に責められなければ、大胆に神の御前に出ることができ、22 また求めるものは何でも神からいただくことができます。なぜなら、私たちが神の命令を守り、神に喜ばれることを行っているからです。』⇒このみことばは、神様に対して従順な者こそが、大胆に神様の御前に出ることができ、神様から祝福が与えられることを教えてくれています。

また、皆さんはこういったみことばもご存知だろうと思います。どうぞ、ピリピ 2:13 をご覧ください、『神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。』⇒神様が、皆さんの心に働きかけてくださって、まずは、私たちに願いを与えてくださり…、そうして、今度は、その願いを叶えるという形で、神様のみこころ…、すなわち、神様の御計画をなしていただく、ということが教えられています。

残念なことに、一部のクリスチャンたちは、このみことばだけを見て…、自分の内にあるすべての願いを、神様のみこころであるとして、正当化しようとします…。しかし、このみことばの前後には、こうあるのです。ピリピ 2:12-14、『12 そういふわけですから、愛する人たち、いつも従順であつたように、私がいるときだけでなく、私のいない今はなおさら、恐れおののいて自分の救いの達成に努めなさい。13 神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。14 すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行いなさい。』って…。また、今紹介したみことばの直前には、一致とへりくだりに関して教えられています。だから、そこに、イエス様の十字架という最高の模範が示されてあるのです…。そこで、みことばが私たちに教えてくれていることは、「従順」であります。パウロに対して…、また、聖書のみことばに対して、従順でありなさい！と言うのです。何故なら…、神のみこころとは、何より、神様に対して従順な者にこそ示されるからです。

皆さんも、こういったエピソードをよく覚えてくださっていると思います…。イエス様が、マタイ 13:9-13 で、種蒔きの例えについてお語りになられた後で、こんな問答があったでしょ。『9 耳のある者は聞きなさい。』10 すると、弟子たちが近寄って来て、イエスに言った。「なぜ、彼らにたとえでお話しになったのですか。」11 イエスは答えて言われた。「あなたがたには、天の御国の奥義を知ることが許されているが、彼らには許されていません。12 というのは、持っている者はさらに与えられて豊かになり、持たない者は持っているものまでも取り上げられてしまうからです。13 わたしが彼らにたとえで話すのは、彼らは見てはいるが見ず、聞いてはいるが聞かず、また、悟ることもしないからです。』

⇒このように、イエス様は、神様の前に心を頑なに立て、心を開こうとしない者たちに対しては、ますます、神様の御計画などのみこころを知ることが無い！ということをお教えいただきました…。だって、それは至極当然なことです…。神様に従おうとしない者たちに対して…、言い換えれば、神様のみこころよりも、自分自身の欲や自分の考えを優先しようと考えている者たちに、みこころを示したとしても…、もう既に、その人は、自分のやりたいことを決めてしまっているのです！残念ながら、神様は、そういった者に、その人に対する、最善の御計画である神様のみこころを示してはくされません…。

言うまでもありませんが…、神様のみこころとは、何よりも、まず、このみことばにこそ示されています！そうですよね？だから、聖書のみことばに反することを、神様が誰かにおっしゃるはずがありません。聖書のみことばが、罪であると言っていることを、私たちがみこころであると考えても、当然、それは間違っています。神様のみこころと聖書の教えとは、必ず一致するのです。何故なら、聖書のみことばを書いちゃったのは唯一の神様であり…、私たちにみこころを示してくださるのも、その同じ神様だからです。

#### ⑤すべてのことを、神の 栄光 のためにしていく！（イザヤ 43:7、Iコリント 6:19-20、10:31）

最後5番目は、すべてのことを、神様の“栄光”のためにしていく、ということです。…神様を信じ、神様の目的を理解し…、神様のために生きていこうとする人物を、神は用いてくださいます…。

イザヤ 43:7 に、『わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造し、これを形造り、これを造った。』と教えられています。私たち人間を含むすべてのものを、神様は御自身の栄光を現わすために、造ってくださりました。ですから…、詩篇 19:1 などでは、『天は神の栄光を語り告げ、大空は御手のわざを告げ知らせる。』と教えられていて…、この自然界でさえも、声なき声で神様の栄光を現わしている、とみことばは教えるのです。

また、Iコリント 6:19-20 では、救われたクリスチャン全員に対して、『19 あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。20 あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもつて、神の栄光を現しなさい。』と命じられています。だから、Iコリント 10:31 でも、『こういうわけで、あなたがたは、食べるにも、飲むにも、何をするにも、ただ神の栄光を現すためにしなさい。』と教えるわけです。…そのように、すべてのことを神様のために、神様の栄光を現わすためにしていこうとする…、そんな者に対して神様はみこころを示してくださるし…、そんな者を神様は用いてくださるのです。

しかし、実際問題として…、私たちは時々、自分の内に湧き上がっている思いが、神様からのものなのか…、あるいは、単なる自分自身の願いなのか、判断が難しい場合があります…。ぜひ、そういった時、自分自身に、こう問い質してみてください、「今、自分の内に起こっている…、この願いが神様のみこころでなければ、私は喜んで、それを捨てることができるかどうか？また、例え、神様のみこころがつかなく…、大変なイバラの道であっても、喜んで、従っていこうとしているかどうか？」って…。つまり、そういった質問によって、何が分かるかと言うと…、今の自分が持っていることの動機が、ある程度、明らかにされるのです。神様は、そのような告白のできる信仰者に対して、神様の素晴らしい御計画を明らかにし…、そんな信仰者を用いてくださるのです…。

#### ●マタイ 18 章にある「教会戒規」の教え

さて、ちょっと、皆さん。ここで、マタイ 18:15-20 をご覧くださいますか。『15 また、もし、あなたの兄弟が罪を犯したなら、行って、ふたりだけのところで責めなさい。もし聞き入れたら、あなたは兄弟を得たのです。16 もし聞き入れないなら、ほかにひとりかふたりをいっしょに連れて行きなさい。ふたりか三人の証人の口によって、すべての事実が確認されるためです。17 それでもなお、言うことを聞き入れようしないなら、教会に告げなさい。教会の言うことさえも聞こうとしないなら、彼を異邦人が取税人のように扱いなさい。18 まことに、あなたがたに告げます。何でもあなたがたが地上でつなぐなら、それは天においてもつなぐれており、あなたがたが地上で解くなら、それは天においても解かれているのです。19 まことに、あなたがたにもう一度、告げます。もし、あなたがたのうちふたりが、どんな事でも、地上で心をつなげて祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。20 ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中からいます。』

⇒皆さんも、ご存知のように、ここでは、「教会戒規」と呼ばれている…、兄弟と呼ばれる者が何かの罪を犯し続ける場合、教会が何らかの処分を下すべきであるという厳しいことが教えられています。…実は、前にいた教会で、ある教会員の方が、こんなことを言われたのを聞いたことがあります。「教会が、一個人の信仰の有無を判断して、除名にしたりすべきでない！信仰の有無を判断できるのは、神様だけで、そこは神様の領域だ！」って…。しかし、今、お読みしたみことばは、そういったことを…、つまり、一個人の信仰の有無を教会が判断しなさい！と教えているのではないのでしょうか！他にも、Iコリント 5 章やテトス 3 章などで、同じようなことが教えられていますよね？

正直言って、今紹介したみことばの前半部分は、感情的には受け入れにくくても…、内容としてはそんなに難しい教えではないと思います…。しかし、後半の方は少し難解で…。時々、文脈から切り離されて、ごく一般的な「祈禱会が何か」に関して語られているように教えられることが、時々あります…。しかし、文脈を無視したような…、そういった理解は正しくないと、もう皆さんは、ご存知のはずです。

どうぞ、今見ているマタイ18章に、しおりが何かを挟んでおいてくださって、ここマタイ18章の後半部分と、非常によく似た表現が使われてあるマタイ16章をご覧ください？…マタイ16:15-19です。『15 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」16 シモン・ペテロが答えて言った。「あなたは、生ける神の御子キリストです。」17 するとイエスは、彼に答えて言われた。「バルヨナ・シモン。あなたは幸いです。このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。18 ではわたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。19 わたしは、あなたに天の御国のかぎを上げます。何でもあなたが地上でつなぐなら、それは天においてもつながれており、あなたが地上で解くなら、それは天においても解かれています。』

⇒ここは、イエス様が、「わたしを誰だと思えますか？」という問いに対して、弟子のシモン・ペテロが、「あなたは生ける神の御子キリストです」ということを告白した…、非常に重要な局面です。イエス様のみことばによれば、ペテロにそのことを悟らせてくださったのは、天の神様なのです！…そのことを受けて、イエス様は、この時、ペテロを特別な御用と言いか、教会の長…、牧会者として召してくださったのです。

でも、どうか、勘違いをしないでください。ローマ・カトリックの人たちは、ここでのイエス様の宣言によって、「ペテロは、すべての教会のリーダーとして召された！」というような理解を持っていますが、私たちは、そのようには考えません。すべての教会の長(＝かしら)はイエス・キリストだけです！…だから、18節でも、イエス様は、『“わたしの”教会を建てます』と言われたのです。教会とは、イエス様の所有物なのです！

だから、この時、イエス様がおっしゃられたのは、ペテロのことを、自分の教会を牧するための牧会者とする、ということなのです。その…、牧会者として召されたペテロに、イエス様は素晴らしい励ましの言葉をかけてくださいました。それが、ここ19節のみことばです。ここ19節で言われている『つなぐ、解く』ということは…、これは当時のユダヤ人指導者にとって親しみのある表現で、彼らは律法に基づいて、何かを禁じたり、あるいは、逆に許可を与えたりしていましたが、ここでは、そういったことについて言われています。つまりは、人々に与えるペナルティであったり、それを解除したりする判断(選択?)について教えてくれています。

つまり…、イエス様は、ペテロに対して、「もしも、あなたが、わたしの(＝イエス様の)名によって、様々な判断を下すのなら、それは天においても、同じことがなされており…、天の神様がそれを支持して下さっている！だから、安心しなさい！」というメッセージなのです。

だから、どうぞ、皆さん、ここ19節のみことばをイメージしながら…、もう1度、先程のマタイ18章のみことばに戻ってみてください。実は、ここマタイ18章でも、そのペテロに対して、イエス様がおっしゃられたのと、かなり近い言い回しが使われています。18節にこうあります、『まことに、あなたがたに告げます。何でもあなたがたが地上でつなぐ(欄外注:あるいは「禁じる」)なら、それは天においてもつながれており、あなたがたが地上で解く(欄外注:あるいは「赦す」)なら、それは天においても解かれています。』という、イエス様の宣言です。…先程見た、マタイ16章では、ペテロ個人を指して、「あなたがたがつなぐなら…」と言われていたのが、ここでは、「あなたがたがつなぐなら…」となっていて、ここでは、教会を指して言われている、ということに注目してください。…だから、先程見たマタイ16章でも、イエス様は、ペテロ“個人”に、何か大きな権限を与えられたというのではなく…、キリストを主として、キリストのみことばに従おうとする牧会者としてのペテロや教会の判断に対して、励ましを与えて下さっている、と考えるべきなのです…。

さて！…だから、続く19-20節には、『まことに、あなたがたにもう一度、告げます。(＝先程と関連がある！同じこと！)もし、あなたがたのうちふたりが、どんな事でも、地上で心をつなげて祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです。』⇒これは、明らかに、「祈禱会の人数が少なくても…」ということを教えているのではなく、「教会戒規(＝罪を犯した兄弟に対する処分)」が教えられている文脈の中で…、いえ、それ以上に、教会戒規を教会が実行していく中で、イエス様が教えて下さっている内容の一部です。つまり…、その言わんとしていることは、「教会戒規において、その証人たち(20節の、『ふたりでも三人でも』という言葉と、16節の、『ふたりか三人の…』という言葉は、原語では全く同じ言葉が使われていて、無関係と考えることが不自然なように思われるべき)が、『心をつなげて祈るなら…』、神様は、その決定を導いてくださるし…、その決定を支持して下さる！」と考えるべきであると思います。

確かに…、個人の信仰の有るか無いかという問題を…、つまり、その人が救われているか否か？という判断を、第三者である教会が行なうということは、非常に難しいことですし、かなり責任が重いことですが！しかし、神様は、それ故に…、教会に対して、このような導きを与え…、このようなみことばでもって、励ましを与えて下さっているのです。

#### <励ましの言葉>

つまりね、皆さん…。私たちが、こういったみことばから学びたいことは、神様のみことばとは、決して、一部の者にしか示されないのではなく、教会のリーダーや、そのことについて祈ってきた者たちにも同じように示して下さる、ということなのです…。

神様は、御自身のみことばを用いて、神様の御計画をなして下さるのですから…、神様は、そういったことを、一緒になって祈ってくれている…、他の霊的な者たちにも示して下さるはずなのです。だから、私たちは、神様のみことばというものを知っていくために、できるだけ詳しく状況を知っている者たちの中で、一緒に祈っていくことが必要なのです。そして、神様は、同じように祈っている者たちにも、神様のみことばというものを示して下さるのです。

時々…、その人だけが、「これは神様のみことばだ！」と言い張る方がいます。しかし、そのことを詳しく知っていて、そのために祈ってきたメンバーの多くは、そうは考えていないのです。もし、そこに神様が働いて下さっているのなら…、皆の見解は一致していくはずではないでしょうか？今日のみことばの17節に、『主のみことば』とあったように…、私たちクリスチャンにとって、神様とは単なる、私たちの造り主ではありません。私たちが仕えるべき…、私たちが従うべきご主人様であるはずなのです！

神様は、今日、ここにお見えになっておられるすべての皆さんに、素晴らしい最善の御計画である、主のみことばを教えてください。しかし、それに必要なのは、今、私たちが見てきたような、5つの条件を、あなたが揃えているかどうかです。どうぞ、皆さんが、ますます、神様を愛し、神様の前に、賢い者となって頂くことを願います。どうか、たった1度の人生を、無駄にすることなく…、価値ある人生を歩んで下さり…、つまらないことではなく、より素晴らしいことに目を留め…、より意味のある選択をして頂くことをお勧めいたします。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。